



Fiery Verify

© 2024 Fiery, LLC. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2024年5月20日

目次

Fiery Verify 2.12	5
Fiery Verify でサポートされている測定器	5
サンプルをカラーリファレンスと比較する	6
Fiery Verify で許容値設定を作成/編集する	7
サンプル測定値を保存する	7
参照用としてサンプルを保存する	8
リファレンスをロード	8
サンプルをロードする	8
パッチ測定	8
リファレンスを測定	9
サンプルを測定	9
レポートを保存する	10
検証ラベルを作成する	10

Fiery Verify 2.12

Fiery Verify は、カラーリファレンスと比較したカラー測定値の検証結果を表示します。結果は、カラーリファレンス、サンプル測定値、および許容値設定から計算されます。Fiery Verify では、比較するために許容値設定を編集できます。

Fiery Verify でサポートされている測定器

Fiery Verify では、印刷された出力の測定が必要な機能のための計測器が必要です。Fiery Verify がサポートしている測定器は以下の通りです。

サポートされている計測器

- 次の測定器では、測定リファレンスワークフローおよび測定サンプルワークフローがサポートされていません。
 - EFI ES-6000
 - EFI ES-3000
 - EFI ES-2000
 - EFI ES-1000
 - Barbieri Spectropad (USB 接続のみ)
 - Barbieri Spectro LFP
 - Barbieri Spectro LFP qb
 - Barbieri Spectro Swing
 - Canon iPRC10000VP シリーズインライン
 - Konica Minolta FD-9
 - Konica Minolta FD-5BT
 - Konica Minolta IQ-501
 - X-Rite i1iSis 2 XL
 - X-Rite i1iSis 2
 - X-Rite i1iSis XL
 - X-Rite i1 iSis
 - X-Rite i1iO 3
 - X-Rite i1iO 2

- X-Rite iLiO
 - X-Rite i1Pro 3
 - X-Rite i1Pro 2
 - X-Rite i1Pro
 - X-Rite i1Pro 3+
 - Xerox iGen インライン分光測色計
 - Xerox Full Width Array
- 次の測定器では、パッチ測定ワークフローがサポートされています。
- EFI ES-3000
 - EFI ES-2000
 - EFI ES-1000
 - X-Rite i1Pro 3
 - X-Rite i1Pro 2
 - X-Rite i1Pro
 - X-Rite i1Pro 3+
 - Konica Minolta FD-5BT
 - Konica Minolta Myiro

詳細については、[リファレンスを測定](#)（9 ページ）、[サンプルを測定](#)（9 ページ）、[パッチ測定](#)（8 ページ）を参照してください。

サンプルをカラーリファレンスと比較する

サンプルとリファレンスファイルをロードし、許容値設定を使って比較します。

メモ：Fiery Verify では、.icc、.txt および.it8 ファイル拡張子がサポートされています。

メモ：サンプルとリファレンスファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。

1 オプション: ファイル **新しい比較** > をクリックして、新しい比較を開始します。

2 比較 **リファレンスをロード** > をクリックします。

メモ：G7 グレースケール許容値セットには、カラーリファレンスファイルは必要ありません。

3 ファイルを選択し、**開く** をクリックします。

4 比較 **サンプルをロード** > をクリックします。

5 ファイルを選択して、**開く** をクリックします。

6 カラーワークフローに適した**許容値設定**を選択します。

7 オプション: **レポート**をクリックして、PDF形式で詳細なレポートを保存します。

メモ: G7 グレースケール許容値セットまたは G7 対象許容値セットが選択されている場合、 ΔE 列は表示されません。

Fiery Verify で許容値設定を作成/編集する

許容値設定を作成または編集して、Fiery Verify で比較するために使う基準を指定します。

以下を含むカラーワークフローの許容バリエーション限度を把握します。

- ΔE 式
- 通常の ΔE 限度
- 原色の ΔE 限度
- 色相差異の ΔH 限度
- トーン値の許容限度
- 彩度差異の ΔCh 限度
- NPDC の ΔL 限度
- スポットカラー ΔE 限度

メモ: 限度は、条件ごとに計算される許容値範囲を定義します

- 1。 **編集** > **許容値セットエディター** をクリックします。
- 2  をクリックします。
- 3 **ΔE 式** を選択します。
- 4 必要な **許容値基準** のチェックボックスを選択します。
- 5 選択されている各基準の **限度** を入力します。
- 6 **警告** または **失敗** を選択して、測定値が指定限度を超えたときに、各基準が示される方法を選択します。
 - **警告** は通知のみのため、比較を行えます。
 - **失敗** は、すべての比較が失敗する原因となります。
- 7 **保存** をクリックします。

サンプル測定値を保存する

検証処理の一部として行われた測定サンプルを .it8 ファイルとして保存します。

測定サンプルは .it8 ファイルとして保存されます。

リファレンスとして使用するため、または比較のために、測定サンプルを保存します。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > サンプルを保存**をクリックします。
- 2 レポートを保存する場所に移動します。
- 3 ファイル名を入力し、**保存**をクリックします。

参照用としてサンプルを保存する

検証プリセットエディターでカラーリファレンスとして使用するために、測定サンプルを保存します。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > 参照用としてサンプルを保存する**をクリックします。
- 2 ファイル名を入力し、**保存**をクリックします。

リファレンスをロード

リファレンスファイルを Fiery Verify にロードし、測定サンプルと比較します。

メモ: Fiery Verify では、.icc、.txt および.it8 ファイル拡張子がサポートされています。

メモ: リファレンスファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > リファレンスをロード**をクリックします。
- 2 ファイルを選択し、**開く**をクリックします。

サンプルをロードする

サンプルファイルを Fiery Verify にロードし、リファレンスと比較します。

メモ: Fiery Verify では、.icc、.txt および.it8 ファイル拡張子がサポートされています。

メモ: サンプルファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > サンプルをロード**をクリックします。
- 2 ファイルを選択し、**開く**をクリックします。

パッチ測定

測定を実行して、印刷されたカラーパッチをすばやく比較します。

サポートされている携帯型測定器が接続されていることを確認します。

- 1 オプション: ファイル **新しい比較 >** をクリックして、新しい比較を開始します。
- 2 オプション: 必要に応じて、リファレンスファイルまたはサンプルファイルをロードします。

- 3 比較 **パッチ測定を開始** > をクリックします。
- 4 画面のキャリブレーション手順に従って、測定器のキャリブレーションを行います。
- 5 **測定モード** をクリックし、任意の測定モードを選択します。
- 6 **キャリブレート** をクリックします。
- 7 **リファレンス** または **サンプル** の下をクリックして、カラー測定を表示する場所を選択します。
- 8 測定するカラーパッチの上に測定器を配置します。
- 9 測定器を使用してカラーパッチをスキャンします。
Fiery Verify により、新しい測定値と **リファレンス** 列または **サンプル** 列の内容が自動的に比較され、その結果が表示されます。
- 10 必要なパッチがすべて測定されたら、**測定を停止** をクリックします。

リファレンスを測定

Fiery Verify でリファレンスとして使用するパッチページを測定します。
印刷済みのパッチページが必要です。

メモ : Fiery Verify により測定値が .it8 ファイルとして保存されます。

- 1 Fiery Verify で、**比較** > **リファレンスを測定** をクリックします。
Fiery Verify では FieryMeasure を使用してサンプルの測定を行います。
- 2 **測定器** リストから測定器を選択します。
測定モード や **大きなパッチサイズ** などの設定を行うには、測定器選択の右側の **設定** をクリックします。
- 3 **測定** リストから、測定の用途を選択します。
- 4 **パッチセット** リストから、実施する測定に適したパッチセットを選択します。
- 5 **チャートサイズ** リストで、ワークフローに適した用紙（プリンターに投入する）に対応するチャートサイズを選択します。
- 6 **測定** をクリックします。
- 7 画面の指示に従って、測定器のキャリブレーションを行います。
- 8 画面の指示に従って、ページを測定します。

サンプルを測定

Fiery Verify のサンプルファイルとして使用するパッチページを測定します。
印刷済みのパッチページが必要です。

メモ : Fiery Verify により測定値が .it8 ファイルとして保存されます。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > サンプルを測定**をクリックします。
Fiery Verify では FieryMeasure を使用してサンプルの測定を行います。
- 2 **測定器**リストから測定器を選択します。
測定モードや**大きなパッチサイズ**などの設定を行うには、測定器選択の右側の**設定**をクリックします。
- 3 **測定**リストから、測定の用途を選択します。
- 4 **パッチセット**リストから、実施する測定に適したパッチセットを選択します。
- 5 **チャートサイズ**リストで、ワークフローに適した用紙（プリンターに投入する）に対応するチャートサイズを選択します。
- 6 **測定**をクリックします。
- 7 画面の指示に従って、測定器のキャリブレーションを行います。
- 8 画面の指示に従って、ページを測定します。

レポートを保存する

検証比較の詳細を PDF ファイルとして保存します。

- 1 Fiery Verify で、以下のいずれかを行います。
 - ファイル **PDF にエクスポート > レポート > をクリック**
 -  をクリック

- 2 レポートを保存する場所に移動します。
- 3 **保存**をクリックします。

メモ：G7 グレースケール許容値セットまたは G7 グレースケール対象許容値セットが選択されている場合、 ΔE 列は表示されません。

検証ラベルを作成する

検証比較の詳細を PDF ファイルのラベルとして保存します。

- 1 Fiery Verify で検証が完了したら、 をクリックします。
ラベルが PDF で作成され、デフォルトの PDF ビューアで開かれます。
- 2 必要に応じて PDF ファイルの印刷や保存を行います。

メモ：G7 グレースケール許容値セットには、カラーリファレンスファイルは必要ありません。